

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475301071	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地		
所在地	(〒2013-0032) 神奈川県川崎市高津区久地2-12-22		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年12月17日	評価結果 市町村受理日	令和3年1月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ対策として現在面会一時停止中である。
ご家族様に利用者様の現在の状況を分かって頂ける様、スタッフブログに日々の様子や出来事を分かりやすく掲載することを、定期的に続けている。これによりご家族様は勿論のこと、施設を探している方にも(是非こちらに入りたいです!)と言っていたことが増えた。
グループホームみんなの家・川崎久地が大切にしているひとつに「行きたい所」に行くということを掲げているが、コロナでこちらも難しい現状であるため、毎月の出前を活用し、テラスで食事をしていただく等工夫をし、楽しんでいただける様務めている。その他、季節の花のちぎり絵や日々のリズム体操も楽しんでいただいている活動のひとつである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年1月12日	評価機関 評価決定日	令和3年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇身体拘束の廃止、虐待防止への取り組み
「身体拘束廃止委員会」「虐待防止委員会」を、毎月交互に開いて話し合い事例について検討している。職員は、研修の一環として身体拘束の疑似体験を行い、利用者の思いを想像し「考える・体験し意見交換する」ことを大切にして、人権を守るケアに取り組んでいる。居室担当職員が、毎月身体拘束チェックシートを使って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
◇ブログを通した利用者情報の発信
コロナ禍で家族には、利用者への面会を中止しているため、毎月の一言通信のコメントと写真にだけでなく、ブログの発信にも力を入れている。担当職員が、利用者の日常の様子を写真に撮ってアップしており、家族からは、様子がよくわかると喜ばれている。
【事業所が工夫している点】
◇室内レクリエーションの充実
コロナ禍で、今年度は散歩、外出レクリエーション、地域との交流ができなため、室内レクリエーションを充実させている。職員の提案で運動会やヨガ教室を行い、職員によるコンサートも開催している。季節を感じられるように、季節の花のちぎり絵を、利用者と一緒に作り壁面に飾っている。
寿司や釜飯の出前、ムースやたこ焼き風ケーキ等「おやつレクリエーション」にも力を入れ、たまにはテラスで食べて利用者に喜んでもらっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

令和2年度	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示している。日々の申し送り時に唱和する事により、常に意識付け、実践へ繋げている。	・事業所理念「昨日・今日・明日を考え、笑顔で楽しい毎日！」を玄関とスタッフルームに掲示し、職員は、日々実践に努めている。 ・職員が笑顔で接することにより、利用者にも笑顔が伝わって好循環になっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策で施設への入館、および面会の一時停止中である。それに伴い地域の方のボランティア来訪も休止中、地域の行事等も中止が多く、事業所自体が地域の一員として日常的に交流は難しい現状であった。	・例年のボランティアによる腹話術、フラダンス、コンサート、自治会の花見や祭りも、今年度はコロナ禍のため中止になっている。 ・職員は、近隣住民と日常的に挨拶を交わすなど、交流は続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策のため、実際には難しい部分があった。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症対策のため、事業所内に地域の方々をお呼びしての取組み状況の報告は難しかったが書面で報告を行った。又、質問等あれば返信下さいとの用紙を都度お送りさせていただいた。（ご家族様、町内会長、老人会会長、民生委員、地域住民代表、地域包括職員）	・2か月ごとに開催していた運営推進会議は、昨年3月以降、活動状況報告書を送付または持参して、質問意見を送ってもらう形にしている。 ・以前、運営推進会議での提案で、カラオケ機器を貸してもらい、事業所内でカラオケ大会を開催したこともある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所職員や地域包括支援センター職員とは介護保険や生活保護等に関する事で密に連絡を取り合っている。今年に関しては電話かこちらから出向くことが多かった。（コロナ対策）	・区の高齢福祉課や保護課、地域包括支援センターとは、運営推進会議の報告書の送付や電話などで、事業所の状況を伝えている。 ・行政関係主催の研修や連絡会などは、今年度はコロナ禍のため実施していない。		

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置し、話し合いや事例検討、ロールプレイ等の中で理解を深めている。又、身体拘束チェックシートを用いて3か月に1回の見直しを行っている。	・「身体拘束ゼロ推進！」を掲げ、2か月に1度の「身体拘束廃止委員会」では、疑似体験研修をするなど具体的に話し合っている。 ・居室担当者は、毎月身体拘束チェックシートを使い、拘束をしないケアに取り組んでしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、チェックシートを用いた話し合いを行う他、会議でも定期的に話題にし、意識付けを行うことで防止に務めている。又、勤務に入る前に「虐待ゼロへの行動指針」を唱和しての意識付けも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催されるセミナーの掲示、研修会等学べる場、参加できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約をしている。又、契約時以外でも随時質問を受け付け、安心して理解して頂ける様務めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議はコロナ対策の為事業所内で実施していない状況であるが、その旨を知らせる案内用紙に意見を書きただけの枠を設けている。その他日常での電話連絡時に意見やご希望があれば随時お伺いし、反映させ続けている。	・利用者からの要望として、外出希望等を聞いている。 ・家族との面会が中止のため、利用者の様子を見てもらえるようブログを充実させている。毎月送る「ひとこと通信」にも写真やコメントを記載し、意見を返信してもらっている。	

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や、個別に面談する機会を設けている。その他にも連絡帳を通して常に意見ができる環境を作り、反映させている。	・管理者は、申し送り時やフロア会議、個人面談などで職員の意見を聞いて運営に反映させている。 ・職員の提案で運動会を企画したり、ヨガインストラクターの資格を持つ職員の提案で、利用者にヨガ教室を始めたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、人事考課を実施している。個々の頑張りを平等に評価する事でそれぞれがやる気や向上心を持って働くことができる環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フォローアップ研修等各自に合わせた研修機会を有している。働きながらスキルアップできる環境がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ対策の為同業者と直接交流の場を作るのは難しい現状であった。しかし、リモート交流で法人内他施設と交流する機会があった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前（入居前）の念入りの聞き取りを基とし、入居時、入居後も傾聴を前提としたヒヤリングを随時行い本人の安心、思いを尊重するように努めている。		

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設けご家族様の話を傾聴している。その他電話連絡時（現在面会停止中）積極的にコミュニケーションをとる中で相談しやすい環境づくりを目指し、継続している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を念入りに行う事を前提とし、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有、「その時」必要としている支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、出来る事は行って頂き、終了後は感謝の気持ちをお伝えする事により相互に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発送している一言通信、その他電話連絡があった時等に報告・連絡・相談を行い、共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴やご本人様との会話の中で出たワードを基に、話題提供を行っている。 ・コロナ禍前は昔からの趣味や馴染みの場所への外出を定期的に行っていた。	・入居前の生活歴や日常生活を通し、利用者のこれまでの関係の把握に努めている。コロナ禍前は馴染みの銭湯などに外出する利用者もいたが、今年度は難しい。 ・電話を取り次いだり、年賀状や手紙を出す支援をしている。	

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者様通しの関係性を把握し、職員が橋渡しを行う事で相互支え合うような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて適宜フォロー等、真摯な対応を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や関わり、コミュニケーションから希望や意向を汲み取り都度カンファレンスを実施。又、ご家族の思いも聞き取りを行っている。思いに添えるようなケアの実現を目指し対応をしている。	・職員は、利用者に笑顔で話しかけ、1対1になるときに対話を促して、思いや意向・好みを汲み取るようにしている。把握が困難な場合は、表情や仕草から汲み取っている。把握した情報は申し送りや連絡帳に記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査にて出身地等過去の生活歴を把握している。又、日々の生活の中でも情報収集に努め、変化する生活レベルを考慮す努力を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表を用いてバイタル、食事、水分量、排泄状況の把握をしている。又、利用者様個々の身体状態や言動、行動を日々生活記録に記録をし、連絡ノートや申し送りで共有することで把握をしている。		

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたってはご本人、ご家族の意向を必ず反映させた上で、必要に応じて関係者（医師）等の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	・介護計画は、居室担当者のモニタリングを基に、職員間でカンファレンスを行い、6か月ごとに作成している。利用者、家族の意向や、医師、看護師の意見も考慮している。 ・見直しは、3か月ごとに行い、看取りの場合は1か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録や申し送り、連絡ノート、医療ノート、健康管理表やバイタル表等を活用しながら実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々が必要とするサービスの提供をしている。 (訪問理美容等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ対策にて現在は自粛中であるが、それ以前は定期的な外出（公園散歩、近隣飲食店や洋菓子屋等）を楽しんで頂いていた。自粛中の中でも安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるような支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療において主治医（かかりつけ医）とは顔馴染みの関係である。 かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変の際も緊急対応出来る支援体制がある。	・利用者全員の希望で月2回の提携協力医の訪問診療、週1回の看護師の健康チェックを受けている。歯科医が毎週訪問し、必要な利用者が受診している。 ・整形外科、眼科などの専門医は、家族が付き添って受診し、結果を聞いている。	

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師連絡記録が介護職・看護職とが相互に報告・連絡・相談をしあうツールとなっている。直接ケアの現場においても助言を受けたり相談をする事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際は基本、早期退院を目標とし、病院関係者と密に連絡を取り合い関係作りに努めている。又、退院前には家族・主治医・施設関係者とでムンテラの間を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期における対応の説明を行っている。必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながら、ご家族を含めた話し合いの場を持ち、チーム支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に、重度化した場合の事業所の対応方針を説明している。 ・急性期には、家族の意向を汲み取り、医師や看護師など医療機関との連携体制が図られている。 ・看取りは「介護マニュアル」に沿って行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の急変時や重度化した際に、職員の誰もが介護マニュアルに沿った対応がとれるよう、施設内で研修を行うことが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、緊急時の対応方法を設置している。 職員が迅速に対応出来る様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な状況を想定した避難訓練や消防訓練を定期的に設け、実施訓練を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含め年2回、地震や火災の際の避難訓練を行っている。うち1回は消防署職員が参加し、指導・助言を受けている。 ・多摩川に近く、水害被害が想定されているため、1階利用者が2階へ避難する訓練も行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に備え、飲料水や食料などの備蓄品はリスト化し、数量、消費期限を管理していくことが期待されます。

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせたお声掛けを行っている。 不定期にフロア会議内等で言葉かけ・接遇に対する話し合いを行い、個々の人格の尊重やプライバシーを大切にされた対応を行っている。	・職員は、フロア会議で介護の仕方や接遇について意見交換を行い、人格を尊重し丁寧な言葉かけなど対応改善に取り組んでいる。 ・プライバシー保護マニュアルがあり、職員は入浴や排泄介助時にプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中からお本人の思いや希望などを汲み取り自己決定がなされるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化する皆様の状況を把握しながら、臨機応変・柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やヘアカラー、セラピー等、その人らしいおしゃれが出来る様支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の能力や得意な事を把握した上で食事の盛り付けや配膳・テーブル拭きや片付け等のお手伝いをしていただいている。 又、毎月の出前昼食にて「食」を楽しむ機会も設けている。	・利用者の状態に合わせて、刻み食、ミキサー食を提供している。利用者も盛り付けや配膳、片付けなど、できることをしている。 ・おせち、すき焼きなどの行事食、馴染みの蕎麦や宅配寿司、釜めしなどの出前を楽しんでいる。	

令和2 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態（常食・一口大・刻み・ペースト状）にて対応している。それにより栄養状態の維持・改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、声掛け、介助を行っている。その他週に一度の訪問歯科診療（歯科医師・歯科衛生士来訪）による歯科支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターンを把握し、それぞれに合わせた自尊心を傷つけない対応を続けている。適宜カンファレンスで見直しを行っている。	・排泄マニュアルにて利用者一人ひとりの排泄リズムをチェック表で把握し、トイレ誘導している。 ・排泄誘導の際は、目立たないように、他の利用者やタイミングを配慮して小声で話しかけるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量確保や日々の体操や運動にて便秘予防に取り組んでいる。又、必要に応じて乳酸菌飲料や内服薬にて排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意向や希望をお伺いし、希望を配慮した上で入浴支援を行っている。入浴日の固定、時間の固定、無理強いはいはしない。	・入浴は週2回を原則とし、回数や午前・午後の時間帯に利用者の希望に応じている。 ・利用者がくつろいで楽しく入浴できるよう、昔話をしたり、お気に入りの歌を歌ったりして、支援に努めている。	

令和2 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様のその時の状況を把握した上で、個々にあった休息をしていただいている。 自室でくつろいで頂ける時間を確保したり、除圧が必要な方には臥床し除圧をする時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬剤師より説明を受け、薬の理解を深めている。 又、お薬ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の性格や好み、得意なことに合わせて、役割や楽しみことを支援している。（散歩、歌、おやつ作り、読書等）		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染症対策のため、現在はご利用者の「いきたい所」への外出（レストランや甘味処等）は控えている。	・コロナ禍前は、週に2、3回、近隣の神社や多摩川の土手の花見、レストランでの食事など、利用者の要望に応え外出していた。 ・現在は感染防止のため、家族との遠出を含め、外出ができなくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として利用者様の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っているが、ご家族様了承の下、安心のため少額を持たれている方もいる。		

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎを行っている。又、個人の携帯電話を使用されている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に行事時等に撮影した写真を掲示する事により、いつでも思い出を振り返られるようにしている。その他、季節に合わせた装飾や照明の調整、温度、湿度管理、清掃、換気を適宜実施している。	・居間は、快適な温・湿度になるよう職員が管理し、感染症対策で最低1日3回は換気している。 ・居間や廊下には、行事の写真や季節感のある飾り、利用者と一緒に作ったカレンダーなどを貼り、居心地のよい空間にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間（各階フロア）にはソファや大型TV、マガジンラック等を設置している。個人でくつろがれたり、数人で談笑されたりと皆様おのおのの時間を楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔から馴染みの家具や仏具の等、皆様の思い出のある家具等をお持ち頂いている。その他写真やお気に入りのぬいぐるみ等を持ち込んで頂き、ご本人様がこちよく過ごして頂けるよう工夫をしている。	・居室には、ベッド、エアコン、洗面台、チェスト等が備えられ、利用者は、テレビや仏壇、家族写真など馴染みのある物を持ち込んでいる。 ・居室清掃やリネン交換は、居室担当職員が行い、利用者と一緒に整理整頓、衣替えを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の表示を分かりやすく（顔写真や文字拡大）掲示している。又、バリアフリー、動線の確保により安全な生活環境を整えている。		

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示している。日々の申し送り時に唱和する事により、常に意識付け、実践へ繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策により施設への入館および面会の一時停止中である。それに伴い地域の方のボランティア来訪も休止中、地域の行事等も中止が多く、事業所自体が地域の一員として日常的に交流は難しい現状であった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為実際には難しい部分があった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為事業所内に地域の方々をお呼びしての取組み状況の報告は難しかったが書面で報告を行った。又、質問等あれば返信下さいとの用紙を都度お送りさせて頂いた。（ご家族様、町内会長、盲人会会長、民生委員、地域住民代表、地域包括職員）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所職員や地域包括支援センター職員とは介護保険や生活保護等に関する事で密に連絡を取り合っている。今年に関しては電話かこちらから出向く事が多かった。（コロナ対策）		

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置し、話し合いや事例検討、ロールプレイ等の中で理解を深めている。又、身体拘束チェックシートを用いて3か月に1回の見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、チェックシートを用いた話し合いを行う他、会議でも定期的に話題にし、意識付けを行う事で防止に務めている。又、勤務に入る前に「虐待ゼロへの行動指針」を唱和する事での意識付けも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催されるセミナーの掲示、研修会等学べる場、参加できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約をしている。又、契約時以外でも随時質問を受け付け、安心して理解して頂ける様務めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議はコロナ対策の為事業所内で実施が出来ていない状況であるがその旨を知らせるご案内用紙に意見を書いて頂ける枠を設けている。その他日常での電話連絡時に意見やご希望があれば随時お伺いし、反映させ続けている。		

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や、個別に面談する機会を設けている。その他にも連絡帳を通して常に意見が出来る環境を作り、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、人事考課を実施している。個々の頑張りを平等に評価する事でそれぞれがやる気や向上心を持って働く事が出来る環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フォローアップ研修等各自に合わせた研修機会を有している。働きながらスキルアップ出来る環境がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ対策の為同業者と直接交流の場を作るのは難しい現状であった。しかし、リモート交流で法人内他施設と交流する機会があった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前（入居前）の念入りの聞き取りを基とし、入居時、入居後も傾聴を前提としたヒヤリングを随時行い本人の安心、思いを尊重するように努めている。		

令和2 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設けご家族様の話を傾聴している。その他電話連絡時（現在面会停止中）積極的にコミュニケーションをとる中で相談しやすい環境づくりを目指し、継続している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を念入りに行う事を前提とし、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有、「その時」必要としている支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、出来る事は行って頂き、終了後は感謝の気持ちをお伝えする事により相互に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発送している一言通信、その他電話連絡があった時等に報告・連絡・相談を行い、共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴やご本人様との会話の中で出たワードを基に、話題提供を行っている。 ※コロナ対策前は昔からの趣味や馴染みの場所への外出を定期的に行っていた。		

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者様通しの関係性を把握し、職員が橋渡しを行う事で相互支え合うような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて適宜フォロー等、真摯な対応を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や関わり、コミュニケーションから希望や意向を汲み取り都度にカンファレンスを実施。又、ご家族の思いも聞き取りを行っている。 思いに添えるようなケアの実現を目指し対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査にて出身地等過去の生活歴を把握している。 又、日々の生活の中でも情報収集に努め、変化する生活レベルを考慮す努力を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表を用いてバイタル、食事、水分量、排泄状況の把握をしている。又、利用者様個々の身体状態や言動、行動を日々生活記録に記録をし、連絡ノートや申し送りで共有する事で把握をしている。		

令和2 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたってはご本人、ご家族の意向を必ず反映させた上で、必要に応じて関係者（医師）等の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録や申し送り、連絡ノート、医療ノート、健康管理表やバイタル表等を活用しながら実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々が必要とするサービスの提供をしている。 (訪問理美容等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	※新型コロナ対策にて現在は自粛中であるがそれ以前は定期的な外食や外出（公園散歩、近隣飲食店や洋菓子や等）を楽しんで頂いていた。自粛中の中でも安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう考え支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療において主治医（かかりつけ医）とは顔馴染みの関係である。 かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変の際も緊急対応出来る支援体制がある。		

令和2 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師連絡記録が介護職・看護職とが相互に報告・連絡・相談をしあうツールとなっている。直接ケアの現場においても助言を受けたり相談をする事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際は基本、早期退院を目標とし、病院関係者と密に連絡を取り合い関係作りに努めている。又、退院前には家族・主治医・施設関係者とでムンテラの間を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期における対応の説明を行っている。必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながら、ご家族を含めた話し合いの場を持ち、チーム支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、緊急時の対応方法を設置している。 職員が迅速に対応出来る様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な状況を想定した避難訓練や消防訓練を定期的に行い、実施訓練を行っている。		

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせたお声掛けを行っている。 不定期にフロア会議内等で言葉かけ・接遇に対する話し合いを行い、個々の人格の尊重やプライバシーを大切にしたい対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中からご本人の思いや希望などを汲み取り自己決定がなされるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化する皆様の状況を把握しながら、臨機応変・柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やヘアカラー、セラピー等、その人らしいおしゃれが出来る様支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の能力や得意な事を把握した上で食事の盛り付けや配膳・テーブル拭きや片付け等のお手伝いをして頂いている。 又、毎月の出前昼食にて「食」を楽しむ機会も設けている。		

令和2 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態（常食・一口大・刻み・ペースト状）にて対応している。それにより栄養状態の維持・改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、声掛け、介助を行っている。その他週に一度の訪問歯科診療（歯科医師・歯科衛生士来訪）による歯科支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターンを把握し、それぞれに合わせた自尊心を傷つけない対応を続けている。適宜カンファレンスで見直しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量確保や日々の体操や運動にて便秘予防に取り組んでいる。又、必要に応じて乳酸菌飲料や内服薬にて排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意向や希望をお伺いし、希望を配慮した上で入浴支援を行っている。入浴日の固定、時間の固定、無理強いはいはしない。		

令和2 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、 休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援し ている	皆様のその時の状況を把握した上で 個々にあった休息をして頂いてい る。 自室でくつろいで頂ける時間を確保 したり、除圧が必要な方には臥床し 除圧をする時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法 や用量について理解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	処方時に薬剤師より説明を受け、薬 の理解を深めている。 又、お薬ファイルを作成し、いつで も確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽し みごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の性格や好み、得意な事に 合わせて役割や楽しみ事を支援して いる。（散歩、歌、おやつ作り、読 書等）		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援に努めている。また、普段は行けな いような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけられるように支援し ている	新型コロナ感染症対策の為現在はご 利用者様の「いきたい所」への外出 （レストランや甘味処等）は控えて いる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持 したり使えるように支援している	原則として利用者様の金銭管理は 「立替金」として事業所管理で行っ ているが、ご家族様了承の下、安心 の為少額を持たれている方もいる。		

令和2年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎを行っている。又、個人の携帯電話を使用されている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に行事時等に撮影した写真を掲示する事によりいつでも思い出を振り返られるようにしている。その他、季節に合わせた装飾や照明の調整、温度、湿度管理、清掃、換気を適宜実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間（各階フロア）にはソファや大型TV、マガジンラック等を設置している。個人でくつろがれたり、数人で談笑されたりと皆様のおのの時間を楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔から馴染みの家具や仏具の等、皆様の思い入れのある家具等をお持ち頂いている。その他写真やお気に入りのぬいぐるみ等を持ち込んで頂き、ご本人様がこちよく過ごして頂けるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の表示を分かりやすく（顔写真や文字拡大）掲示している。又、バリアフリー、動線の確保により安全な生活環境を整えている。		

令和2年度

事業所名 グループホーム
みんなの家・川崎久地

作成日 令和3年1月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	急変時や重度化した際の研修が十分ではない。	急変時や重度化に対する研修を行う。	職員誰もがいざというとき（急変時等）慌てずに対応出来る様に研修をユニットごとに定期的に行う。（マニュアルに沿った。）	3か月
2	35	災害時の食料や飲料水、備蓄品はあるが、リストがない。	災害時必要物品リストの作成	食料や飲料水、備蓄品の数量、消費期限等を記したリストを作成、定期的に管理を行う。	3か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。